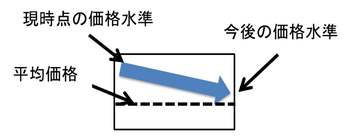
平成28年11月21日
野菜需給部

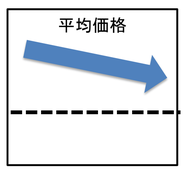
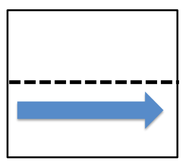
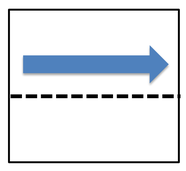
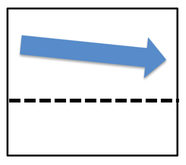
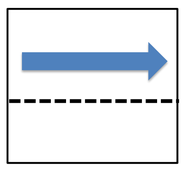
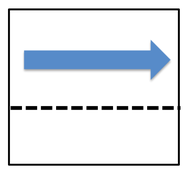
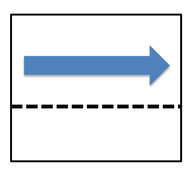
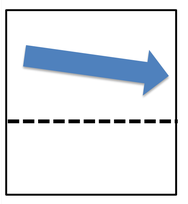
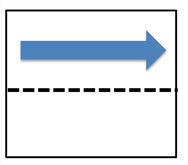
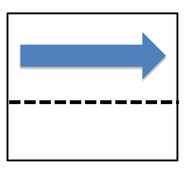
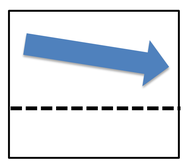
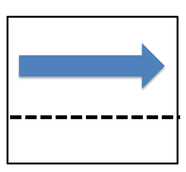
野菜の需給・価格動向レポート（平成２８年１１月２１日版）

１　主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

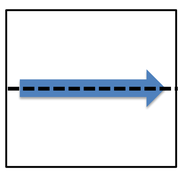
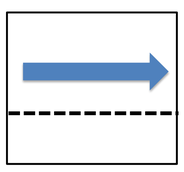
「図の見方」



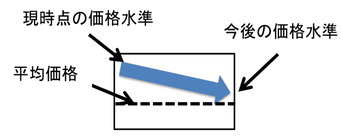
種類		１０月の価格情報			１１月		入荷量	主産地	生育及び価格の11月下旬までの見通し	
		（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 中旬	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 下旬	（参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 上旬				
葉茎菜類	キャベツ	74.19	151 (204%)	182 (245%)	72.93	208 (285%)	・13,410t	千葉（46），愛知（18），茨城（17）		千葉産は、９月の曇雨天の影響による生育遅れや一部で病害が発生していることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、10月以降は天候の回復に伴い、小玉傾向も回復しつつあることから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。愛知産は、概ね天候に恵まれ生育は順調であることから、小玉傾向ではあるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、9月の曇雨天の影響はあるものの、作付面積が増加していることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、愛知産及び茨城産の出荷が平年並み若しくは平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		88.91	151 (170%)	188 (211%)	76.91	220 (286%)	・3,760t	愛知（40），茨城（25），熊本（10）		
	たまねぎ	83.77	75 (90%)	71 (85%)	83.77	67 (80%)	・10,128t	北海道(97)		北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、８月末の台風の被害はあったものの作柄は良く、一部産地では大玉傾向となっている。また、被害のあった輸送網についてもトラック等の振り替え輸送で対応し、一部では復旧していることもあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		83.77	74 (88%)	72 (86%)	83.77	67 (80%)	・4,246t	北海道（83），兵庫（16）		
	ねぎ（関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ）	240.04	339 (141%)	313 (130%)	240.04	336 (140%)	・5,796t	青森（16），秋田（14），新潟（10），茨城（10）		青森産は、８月末の台風により折損等が発生し、下等級品の増加や歩留まりの低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。秋田産は、生育が順調で品質も良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。新潟産は、９月の曇雨天による日照不足の影響で太物が少ないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、９月の曇雨天の影響は見られるものの、大きな影響はなく生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 秋田産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、青森産及び新潟産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		467.01	956 (205%)	761 (163%)	467.01	673 (144%)	・183t	三重（23），徳島（23），香川（15），奈良（12），高知（10）		
	はくさい	56.81	131 (231%)	154 (271%)	40.32	135 (335%)	・12,656t	茨城（80），長野（13）		茨城産は、９月の曇雨天の影響は見られるが、実需の引きが強く前進出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年より多めと見込まれるが実需の引きが強いことから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		69.44	131 (189%)	166 (239%)	55.95	181 (324%)	・4,773t	茨城（30），長野（25），大分（16）		
	ほうれんそう	385.11	850 (221%)	646 (168%)	385.11	655 (170%)	・1,660t	群馬（40），茨城（19），千葉（12），埼玉（12）		群馬産は、９月の曇雨天の影響により生育遅れとなっており、出荷が後ろ倒しとなっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、９月の曇雨天や最近の気温の低下の影響により生育が緩慢になっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、天候は回復してきているものの、９月の曇雨天の影響が残り、引き続き平年よりやや少なめの見込み。 群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		461.74	887 (192%)	718 (155%)	461.74	757 (164%)	・622t	岐阜（39），徳島（24），福岡（20），群馬（9）		
	レタス（結球）	158.27	342 (216%)	254 (160%)	143.63	229 (159%)	・7,356t	茨城（62），兵庫（9），静岡（6），香川（6）		茨城産は、９月の曇雨天の影響による品質の低下が懸念され前進出荷に努めたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。兵庫産は、９月の曇雨天の影響により定植遅れや初期生育の遅れが見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		152.57	376 (246%)	304 (199%)	154.61	271 (175%)	・1,396t	兵庫（39），茨城（25），徳島（14）		
果菜類	きゅうり	289.03	578 (200%)	426 (147%)	289.03	465 (161%)	・4,693t	埼玉（28），群馬（21），宮崎（15），千葉（9）		埼玉産は、夜温が高いことによる生育の遅れにより、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、８月末の台風及び９月の曇雨天や気温の低下による影響により、生育遅れや病害も見られ、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。宮崎産は、９月の曇雨天の影響から細物が多く、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は生育が回復に向かい、平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、９月の曇雨天の影響により生育が遅れており、現在平年より少なめの出荷となっているものの、生育が回復してきていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、埼玉産、群馬産及び宮崎産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		298.96	593 (198%)	464 (155%)	298.96	500 (167%)	・886t	宮崎（50），高知（14），群馬（11），大阪（10）		
	トマト（大玉）	347.41	470 (135%)	595 (171%)	347.41	522 (150%)	・5,403t	熊本（40），千葉(18)，愛知（12），茨城（7）		熊本産は、９月の曇雨天や10月の気温高による着果不良の段からの出荷となっていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、前進出荷に努めていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、９月の曇雨天の影響により着果不良及び小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。愛知産は、８月末の台風及び９月の曇雨天の影響により着花不良となっていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、10月以降は天候が回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 熊本産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		371.67	479 (129%)	595 (160%)	371.67	520 (140%)	・977t	熊本（70）		
	なす	301.00	339 (113%)	366 (122%)	301.00	386 (128%)	・2,393t	高知（56），福岡（15），栃木（10）		高知産は、９月の曇雨天の影響から徐々に回復し、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、８月中旬の高温により着花不良となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 引き続き、高知産の出荷が平年並み、福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		263.21	310 (118%)	354 (134%)	263.21	402 (153%)	・528t	高知（40），熊本（22），福岡（22）		
	ピーマン	263.58	569 (216%)	572 (217%)	378.83	571 (151%)	・2,175t	茨城（56），宮崎(19)，高知（13）		茨城産は、９月の曇雨天の影響により着花不良となっていることから、平年より少なめの出荷となってるものの、今後は10月以降の天候の回復や促成作の出荷も増えてくると見込まれることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。宮崎産は、９月の曇雨天の影響により生育が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産及び宮崎産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		296.27	525 (177%)	545 (184%)	371.29	528 (142%)	・437t	宮崎（48），高知（18），鹿児島（11）		
根菜類	だいこん	67.55	134 (198%)	141 (209%)	67.55	132 (195%)	・12,778t	千葉（68），神奈川（15），茨城（9）		千葉産は、８月末の台風及び９月の曇雨天の影響による生育遅れから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候不順の影響の少ない圃場からの出荷に移行していくことから、平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、９月の曇雨天の影響による生育遅れから、細物が多く、現在平年よりも少なめの出荷となっているものの、天候が回復してきていることから今後は平年並みの出荷の見込み。 千葉産及び神奈川産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		76.48	134 (175%)	148 (194%)	76.48	146 (191%)	・3,829t	長崎（23），和歌山（13），徳島（13），石川(11)，鹿児島（11）		
	にんじん	123.08	258 (210%)	255 (207%)	105.86	233 (220%)	・7,578t	千葉（58），北海道（30）		千葉産は、９月の曇雨天の影響により生育遅れがみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりも少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		123.11	271 (220%)	266 (216%)	104.49	240 (230%)	・2,180t	北海道（56），長崎（28）		

１　主要野菜の生産出荷状況

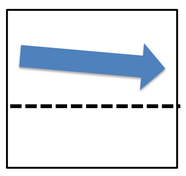
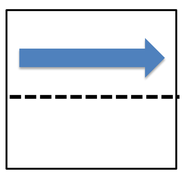
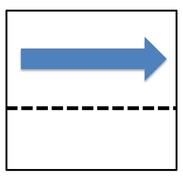
・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類		１０月の価格情報 （参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 中旬	下旬	１１月 （参考）保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 上旬	入荷量	主産地	生育及び価格の11月下旬までの見通し	
いも類	さといも	220.97	285 (129%)	258 (117%)	220.97	233 (105%)	・1,218t	埼玉（63），千葉(13)		埼玉産は、生育は順調で収穫作業も順調に進み、前進傾向であることから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は年末に向けた計画的出荷に移行していくことから、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、９月の台風等の天候不順の影響で小玉傾向ではあるものの、計画的出荷となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		217.56	**334** **(154%)**	286 (131%)	217.56	292 (134%)	・234t	愛媛(49)，福井（36）		
	ばれいしょ	96.99	**148** **(153%)**	145 (149%)	96.99	**148** **(153%)**	・7,672t	北海道（98）		北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、８月末の台風による大雨の影響で腐敗が発生し、歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		96.99	**148** **(153%)**	**151** **(156%)**	96.99	**150** **(155%)**	・3,675t	北海道（92），長崎（8）		

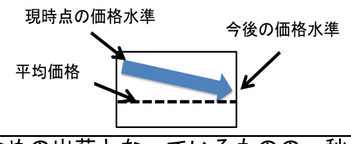
「図の見方」



注：１　平均価格は、過去６カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
２　旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
３　単位は円/ｋｇ、上段は関東、下段は近畿ブロック。
４　入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去５カ年平均の数値である。
５　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで前年実績である。
６　コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

種類		１０月の価格情報 （参考）過去５カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格 中旬	下旬	１１月 （参考）過去５カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格 上旬	入荷量	主産地	生育及び価格の11月下旬までの見通し	
洋菜類	ブロッコリー	378.98	**614** **(162%)**	488 (129%)	268.06	**550** **(205%)**	・2,773t	埼玉（39）、愛知（10）、香川（9）、群馬（8）		埼玉産は、９月の曇雨天の影響が残り、現在平年より少なめの出荷となっているものの、秋冬作は順調な生育となっていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知産は、９月の曇雨天の影響により生育遅れが発生していることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、10月から天候が回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。香川産は、気温高及び多雨の影響で傷みや病害が多く歩留まりが悪いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、曇雨天の影響で一部で病害が発生し、定植遅れもあることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 香川産及び群馬産の出荷が平年より少なめ若しくはやや少なめと見込まれるものの、埼玉産及び愛知産が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		405.55	**642** **(158%)**	531 (131%)	346.18	**622** **(180%)**	・687t	鳥取（31）、徳島（20）、長崎（9）		
根菜類	ごぼう	234.76	319 (136%)	348 (148%)	222.66	**368** **(165%)**	・1,213t	青森（73）、茨城（13）		青森産は、８月末の台風の影響により葉の損傷や茎の折れ等が発生し、細物や短物が多く、曲がりも見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っているの価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		159.02	**265** **(167%)**	**272** **(171%)**	159.67	**265** **(166%)**	・767t	北海道（38）、青森（25）、茨城（23）		
果菜類	かぼちゃ	123.11	**216** **(175%)**	**238** **(193%)**	142.57	**259** **(182%)**	・3,155t	北海道(80)		北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、８月末の台風による多雨の影響により腐敗等が発生し、歩留まりが低下していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		128.48	**223** **(174%)**	**213** **(166%)**	145.65	**264** **(181%)**	・1,056t	北海道(64)、ﾆｭｰｶﾚﾄﾞﾆｱ（16）		

「図の見方」



注：１　平均価格は、過去５カ年（平成23～27年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
２　旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/ｋｇである。
３　旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
４　入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去５カ年平均の数値である。
５　主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（　）内は入荷シェアで前年実績である。

２　トピック　　－　ほうれんそうの需給動向等について　－

今回は、11月から３月ごろが旬で消費もぐんと増加する「ほうれんそう」を紹介する（図１）。
ほうれんそうといえば、米国生まれのアニメキャラクター、船乗り（水兵）のポパイが、ピンチの時に缶詰のほうれんそうを飲み込むと強くなり、危機を切り抜ける、といった番組が日本でも放映されていたことを思い出す方も多いと思うが、ほうれんそうは、鉄分やβカロチンなどのビタミンを豊富に含む緑黄色野菜で、栄養が豊富なことで知られ、他にもマンガン、葉酸を含んでいる。

ほうれんそうは「菠薐」（草）と書き、中国語でペルシャのこと。西アジア原産で、ペルシャで栽培されていたからである。
葉に切れ込みのある剣葉の東洋種は中国から渡来したが、「西遊記」の三蔵法師も通ったシルクロードを経て、回教徒の手により中国へ渡り17世紀に日本に伝わったといわれている。一方、丸葉が主体の西洋種が日本に伝わったのは明治以降。北アフリカからイベリア半島を経てヨーロッパへと伝えられ、オランダで品種改良されたもの。ほうれんそうは昼が長いと花芽から花茎が伸び、味が落ちるため、昼の長い北ヨーロッパでも花茎が伸びにくい春から夏まき用の品種に改良された。
現在は、西洋種と東洋種を交配した一代雑種が主流で、品種改良と栽培技術向上で周年収穫が可能になった。

平成26年野菜生産出荷統計によると、野菜の出荷量は1167万トンであり、そのうちの40.5%（473万トン）が葉茎菜類である。ほうれんそうの出荷量は葉茎菜類の中でも10位に入り、4.5%を占めている。
ほうれんそうの作付面積の推移を見ると、平成27年の作付面積は2万1000ヘクタール（対19年比90%、2300ヘクタール減）と減少傾向で推移している。また、出荷量は、20万9800トン（同87%、3万2100トン減）で、作付面積同様に減少傾向で推移している（図２）。これは、生産者の高齢化が進む中で、収穫後の個選等に係る負担が大きいことが要因とされている。

年間の出荷量（産地別）を見ると、27年は千葉県が3万2100トン（全国出荷量占有率15.3%）、埼玉県が2万1700トン（同10.3%）、群馬県が1万8600トン（同8.9%）茨城県が1万5500トン（同7.4%）となっており、関東の主産地４県で41.9%を占めている。出荷量（産地別）の推移を見ると、千葉県、埼玉県が減少傾向で推移している一方で、群馬県、茨城県では増加している。千葉県、埼玉県の作付面積及び出荷量が減少しているのは、都市化の進行が要因の一つとして挙げられる。また、茨城県及び群馬県の出荷量が増加している背景には、栽培及び荷造りが比較的容易な「ちぢみほうれんそう」の生産が着実に増えていることがあげられる。

図1　　月別購入数量の推移

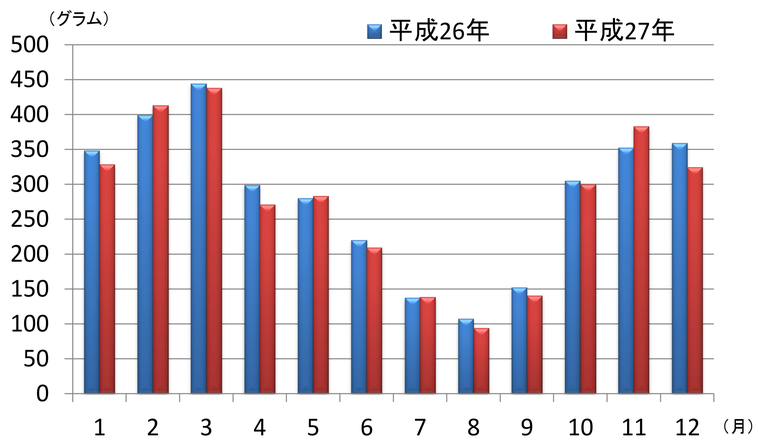


図2　　作付面積と出荷量の推移

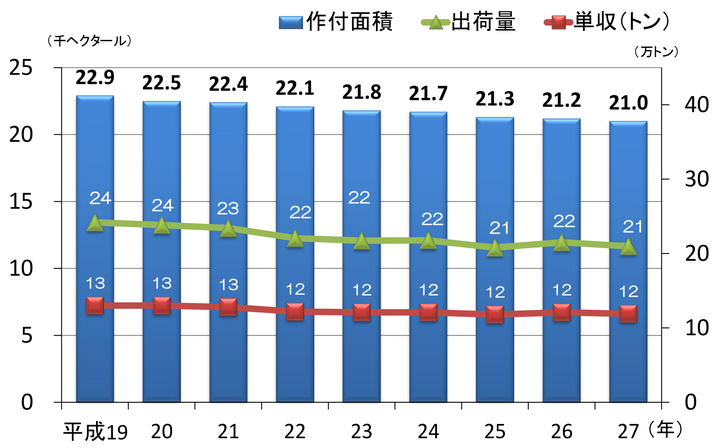
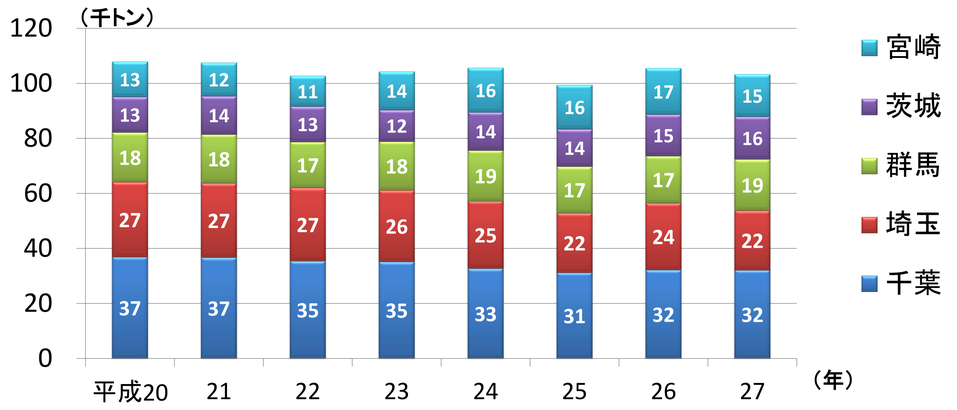


図3　　主要産地別出荷量の推移（上位5位）



資料：図１　総務省「家計消費状況調査」、図２・３　ベジ探（原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部　需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼　TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484　ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000058.html に掲載しています。
※無断転載禁ず　・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。